

年度の予算編成に向けた子育て支援のアイデアについて、会議を2回開催した。

観光・地元産業の活性化は？

ツアー・オブ・ジャパン
自転車愛好家の来訪を増やす施策は。

企画政策部副部長 開催期間は、主要駅周辺のフラッグの掲出数を増やす他、地元住民や商店等の意見を聞きながらソフト的な取り組みも行うなど、今後も大会PRにより来訪者増加を図り、地域振興につなげたい。開催期間以外についても、既に行っている各種イベント、コースの案内看板やサイクルステーションを徐々に増やしていきたい。

産業創出事業

産学連携コーディネーターの活動実績は。

産業振興課長 Dieggのコーディネーターとして同志社大学に委託し、市の財源で配置している。平成28年度には市内企業131社、市外企業35社を訪問し、企業関係者との人間関係の強化を行い、補助金制度、工場用地、展示会等についての情報収集・提供などを行っている。

農業特産品振興事業

茄子の出荷量は増えているが、単価が28年度より下がっている。茄子選果場の稼働やブランド化により上がることを考えているが、市の分析は。

農政課長 28年度に選果場が稼働し、多様な規格の出荷が実現している。出荷量が

が伸びている。年度により出来高や質の差があること、単価の安い漬け物用の出荷も増えているため、全体での単価に影響が出ている。

公園の地元管理 高齢地区への対応は？

都市公園維持管理事業

維持管理を区・自治会に委託している都市公園で、高齢化により管理が難しい区等に対して、どのような対策をしているか。

緑のまちづくり室長 都市公園のうち、その公園の属する区等に日常の管理をお願いしている街区公園において、管理が難しいところには、シルバー人材センターを利用するなど、その方法を相談している。

観光客だけではなく市民も利用



産業振興課長 市の情報発信拠点の一環として観光案内を行っている。観光客だけではなく、市民もお土産用に市の特産品を購入するため利用し、PRにつながっている。

決算認定にあたって 総括審査



会派からの意見

一新会

コンパクトシティ 組織設立に尽力

経常収支比率が高い。まちづくりプランの推進に向け、政策・事業に取組み、事務事業評価、目標達成度98%達成。JR京田辺駅の北側に本市の中心拠点、コンパクトシティ複合施設建設整備を推進し、文化および行政サービス機能、

さらに商業・医療・住居を兼ね備えた施設を予定。地権者・土地所有者の理解の上、早期の準備組織立ち上げに期待。大住工業専用地域の拡大事業では、土地区画整理事業に関する基本協定を締結。早期の事業化に期待。

日本共産党 京田辺市議会議員団

国の施策で 本市財政が悪化

本市の財政収入では消費税交付金や株式等の譲渡所得交付金が大幅に減少。地域経済が低下し、市民生活が厳しくなっている。中でも国の施策による「ふるさと納税」は、4500万円近く

の赤字となっている。北陸新幹線設置による乗客数や費用対効果等の試算もないまま誘致を進めた。市民に道理ある説明を。市民は大型開発より地域が潤う歩道の整備やバス交通の整備を求めている。平成29年度は待機児童が発生した。非正規職員の比率が高く待遇改善で待機児童解消を。中学校昼食のデリバリー弁当は市民ニーズではない。検討委員会

みらい京田辺

下水道事業会計 適正化を求める

ツアー・オブ・ジャパンの開催、公立幼稚園の預かり保育の実施、ごみ処理広域化推進に向けた一部事務組合の設立、またホンデリングプロジェクトやツイッター・フェイスブックの運営等でゼロ予算事業にも取組まれたこと

を評価する。単年度収支が赤字となり経常収支比率が増加している中、厳しい状況と言われているが、財政健全化比率、財政力指数や実質収支額を検証すると、比較的安定した運営だと分析できる。今後は、既存事業の見直しも含め事業の選択を行うべき。

公明党

まちづくりに向け 財源の確保を

経常収支比率が97.2%と悪化。義務的経費が増加して財政の硬直化が進んでいる。平成29年は、北陸新幹線の松井山手新駅設置が決定し、新名神高速道路の八幡・京田辺・城陽間も開通した。このような大きな事業には進めるべき。

相当額の財政出動、長期的な財政運営を迫られている。企業誘致、財源確保に努め、財政調整基金への積み増しが必要。立地適正化計画を策定し、コンパクトシティ整備に向けたまちづくりを進めよ。29年はTOJ京都ステージの2年目を成功裏に終えた。TOJを通して、自転車を活用したまちづくりを図るべき。環境施策、健康づくり、そして観光客を招き入れる観光振興を進めるべき。